



五代さんの目線の先 ～未来の大阪～

光世証券
取締役社長 巽 大介

大阪北浜、旧大阪証券取引所市場館ドームの前にマントの裾を翻しながら堂々と、まるで未来を見据えるかのように立つ勇姿がある。五代友厚の銅像だ。五代友厚は薩摩藩出身でありながら広い海の向こうの世界に目を向け、日本国のことを思い、大阪の繁栄こそが日本の国富を強くすると考えた人。五代の偉業は枚挙に暇がないが、言わば近代大阪の経済的基盤を整備した大阪にとって恩人のような御仁である。

五代像の視線の先、中之島には、岩本栄之助の寄付によって建てられた中央公会堂、五代の邸宅跡である日本銀行大阪支店など辰野金吾が関わった歴史的建造物が並ぶ。北浜には他にも緒方洪庵の蘭学私塾「適塾」がある。全国から集まった若者がここで勉強し、福澤先生をはじめ多くの偉人が輩出された。緒方洪庵は感染症対策の始祖とも言える。今のこの時代に彼がいたら、ワクチンが国内で開発されない状況や感染対策の状況を見て、どう感じるであろうか？

五代さんにも尋ねたい事がたくさんある。彼のような偉人は太く、短く、しか生きることができないのであろうか？生き急いで49歳の若さで東京の地で亡くなってしまった。本人の遺志で、その遺骸を既に籍を移していた大阪へ運ばせ、中之島の自宅で葬儀を行った事は、彼の大阪への情熱が窺えるエピソードである。東の渋沢栄一に対して西の五代と並び称された彼が疾風のように時代を駆け抜け逝ってしまった事は、今考えてもとても

惜しまれる。大阪国際金融都市構想を江戸～明治を生きた彼は当時既に考えていた人なのだから。

大阪には、尊い歴史、また文化、伝統がある。

我々に出来る事は、それを学び、守り、継承していくことだ。大阪を愛し命を尽くし、ひいては日本の発展の礎となった先人達の志、精神を受け継いでいくことだ。昔から大阪は強力なリーダーシップと市民の力が相まってイノベーションを起こしてきたのだ。なかなか厳しいビジネス環境が続く我が国であるが、将来性豊かな資本市場である。我が社の正面にもお座りいただいている五代さんの像にご挨拶しながら、私も決して長いものに巻かれることなく、痩せ我慢の精神で頑張りますと念じる。

五代友厚像の作者は文化勲章受章の中村晋也先生。鹿児島の一とだ。「東京の渋沢栄一像と図面上は同じ高さにしておきました」晋也先生は茶目っ気たっぷりの笑顔で言った。『ちゃんと五代さんの方を少し高くしときましたヨ』と私にはそう聞こえた。

